



The 12th Meeting of Japan Society of Stuttering and Other Fluency Disorders

# 日本吃音・流暢性障害学会 第12回大会

プログラム・抄録集

大会  
テーマ

## 当事者・医療者ともに 吃音臨床の更なる発展に向けて考える

会期 2024年9月7日(土)・8日(日)

会場 川崎医療福祉大学

大会長 福永 真哉 川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部  
言語聴覚療法学科 教授

副大会長 塩見 将志 川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部  
言語聴覚療法学科 教授





The 12th Meeting of Japan Society of Stuttering and Other Fluency Disorders

# 日本吃音・流暢性障害学会 第12回大会

プログラム・抄録集

大会  
テーマ

当事者・医療者ともに  
吃音臨床の更なる発展に向けて考える

会期 2024年9月7日(土)・8日(日)

会場 川崎医療福祉大学

大会長 福永 真哉 川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部  
言語聴覚療法学科 教授

副大会長 塩見 将志 川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部  
言語聴覚療法学科 教授

日本吃音・流暢性障害学会第12回大会事務局

川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部 言語聴覚療法学科

事務局長：池野 雅裕、永見 慎輔、飯村 大智

〒701-0193 岡山県倉敷市松島288

E-mail: kituon12@aol.com

# ご 挨拶

日本吃音・流暢性障害学会 第12回大会

大会長 福永 真哉

(川崎医療福祉大学 言語聴覚療法学科)

みなさま、「晴れの国おかやま」の蔵の街「倉敷」での大会へのご参加を予定していただき、誠にありがとうございます。このたび、日本吃音・流暢性障害学会第12回大会を岡山県倉敷市の川崎医療福祉大学で開催させていただくことになりました。本学のある倉敷には、白壁や格子窓のある屋敷、倉敷川沿いの柳並木など江戸時代や明治、大正時代の建造物も多く残っております。また、大原美術館もあり、歴史と文化の香りを漂わせる街を是非訪れていただきたいと思います。

今回は、テーマを「当事者・医療者ともに吃音臨床の更なる発展に向けて考える」と題し、当事者、広く支援者としての医療者を含む両方の立場から、本領域の評価と治療における新たな飛躍を模索したいと思います。今回はこれまで以上に、本学会の構成員である当事者と医療者の立場を併せ持つ講演者が多数登壇されます。多様性の推進の観点からも当事者でもあり医療者(支援者)でもある講演者のお話は、いずれの立場においても、後進の方々に勇気づける内容になると信じております。

本大会では特別講演として、当事者でもあり、医療者でもある旭川荘南愛媛病院・院長の岡部健一先生に、「一隅を照らす、当事者医師が吃音相談外来を始めて思ったこと」から吃音臨床への提言を、教育講座として慶應義塾大学の富里周太先生には「クラタリングに社交不安症を併存した思春期例」について、九州大学の菊池良和先生には「“なおしたい”吃音にどう向き合っているのか?」について、目白大学の坂崎弘幸先生と、ことばの相談室 nakano の仲野里香先生には、それぞれ小児と成人の「吃音臨床の実際」について、教育講演として国立リハビリテーションセンターの北條具仁先生に「はじめて納得、認知行動療法」について、それぞれお話しいただきます。そして、学会企画では、「学校教育の場における支援の取り組み」について、シンポジウムは学際的視点から「吃音臨床に活かせる他領域からの知見」をお話しいただき、当事者視点からは、「吃音と共に生きる、障害にとらわれない生き方を目指して」ともに考えていきます。加えて、学会企画の臨床講座、本学の音声障害領域教員による臨床レクチャーや、一般演題、ポスター演題、女性吃音者の方と吃音当事者に関わる女性の会、マイヴォイスのコーナーも企画していますので、当事者、医療者いずれの聴衆の方々にも積極的に参加して楽しんでいただける大会にしております。

最後に、本大会が皆様の知的好奇心を刺激し、最新の知見にふれていただくことで、明日からの臨床に少しでも役立つことを願っております。

# 日本吃音・流暢性障害学会第12回大会の開催にあたって

日本吃音・流暢性障害学会

理事長 川合 紀宗

(広島大学 ダイバーシティ &  
インクルージョン推進機構)

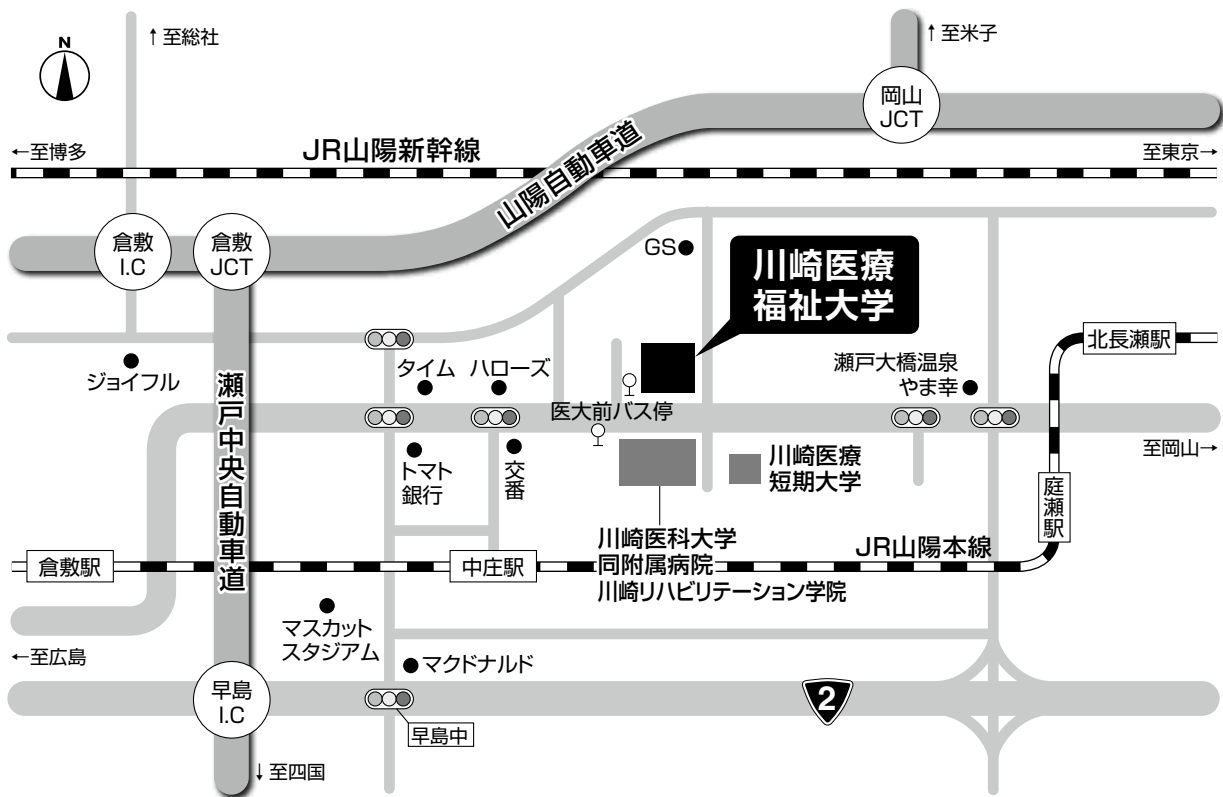
いよいよ第12回大会が、2024年9月7日(土)・8日(日)に、岡山県倉敷市の川崎医療福祉大学にて開催されます。今回の大会のテーマは「当事者、医療者とともに吃音臨床の更なる発展に向けて考える」となっています。本大会では、当事者かつ医療者でいらっしゃる旭川荘南愛媛病院院長の岡部健一先生による豊富な吃音相談外来のご経験に基づく特別講演や、川崎医療福祉大学名誉教授の種村純先生の司会による学際的な視点を生かした吃音臨床の在り方について大会長による会長講演やシンポジウム、国立障害者リハビリテーションセンター病院の北條具仁先生による認知行動療法についての教育講演をはじめ、当事者・臨床家双方からの視点によるシンポジウムや教育講座、そして経験豊富な臨床家による学会企画・臨床講座・臨床レクチャー、さらに、吃音当事者や家族で語り合う「女性の集い」、「マイヴォイス」が企画されておりますし、31演題も会員の皆様による研究発表もございます。このように、医療や学校教育の場における臨床の取組紹介の場や、吃音のある当事者や家族の皆さんが集い、経験を語り合う場など、まさに大会テーマ通りの多彩なプログラムが盛りだくさんです。

2日間、本大会を通して当事者・臨床家が共に学び、知識や経験を共有し、吃音臨床のこれからについて考える契機となることを願っておりますし、参加者間の有意義な交流が、新たな発見やインスピレーションをもたらし、吃音・流暢性障害分野におけるさらなる研究や臨床、セルフヘルプグループの発展に貢献することを心より願っています。

倉敷市は、瀬戸内海に面し、豊かな自然と温暖な気候に恵まれた年間の降水日数が全国で最も少ない「晴れの国」で、美観地区では江戸時代から残る美しい町並みがあり、文化施設も多く存在します。私も大好きな街の一つです。お時間に余裕のある方は、大会期間前後に是非観光にも繰り出していただければと存じます。多くの方々とお目にかかれますことを楽しみにしております。

最後に、本大会開催のためにご尽力いただいた大会長の福永真哉先生、副大会長の塩見将志先生、事務局長の池野雅裕・永見慎輔・飯村大智先生をはじめとする関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

# 会場アクセス図



●学会会期中の駐車場の開放は行っておりませんので、公共交通機関のご利用をお願いいたします。お車でお越しの方は各自、近隣の有料駐車場をご利用ください。

## 【電車】

川崎医療福祉大学の最寄り駅はJR中庄駅です。

新幹線上り、下りとも「JR岡山駅」下車

➔ JR山陽本線へ乗換え「中庄（なかしょう）駅」下車

➔ 中庄駅から川崎医療福祉大学まで 徒歩：約15分、タクシー：約5分

## 【飛行機】

岡山空港からタクシーで約40分

または、岡山空港発着便すべてに接続対応の岡山駅・倉敷駅連絡リムジンバスがあります。

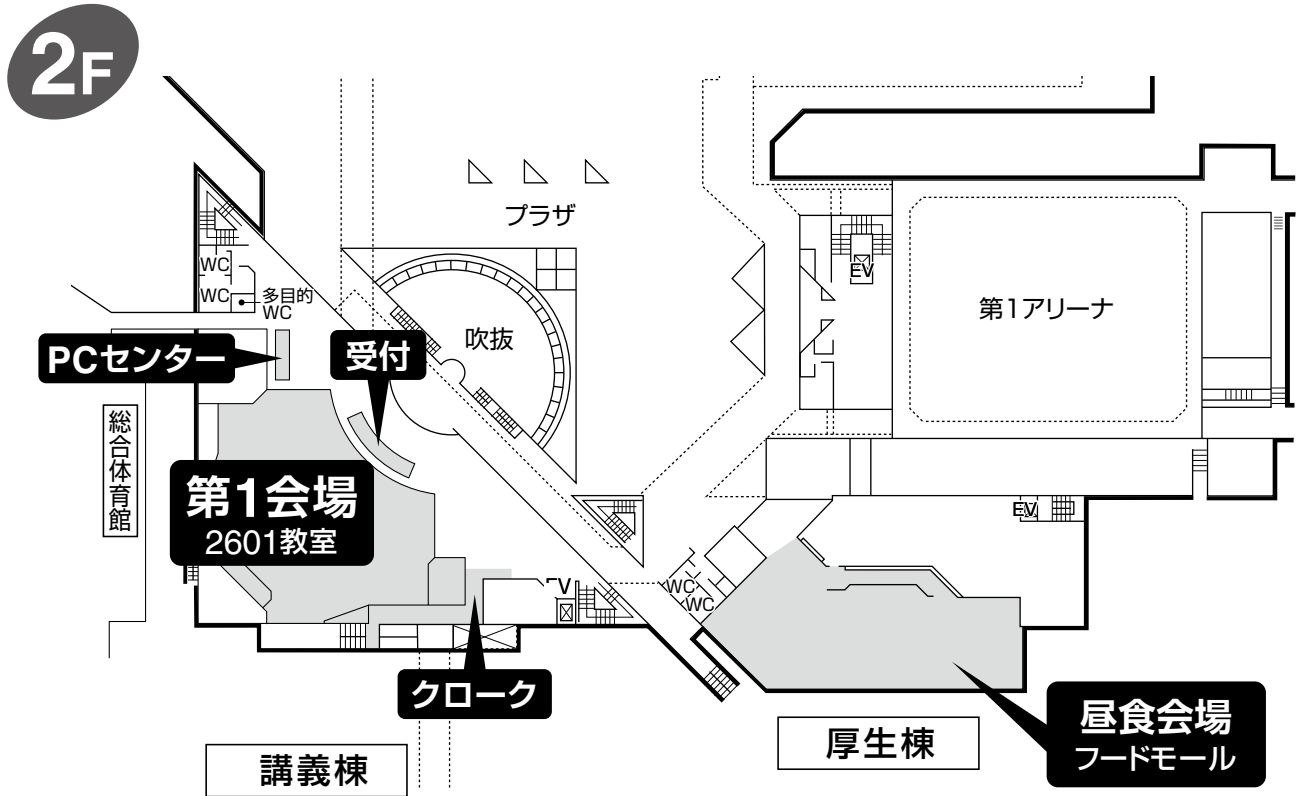
(運行本数は一日50本以上あります。)

岡山空港 ➔ 岡山駅 (所要時間：約30分) ➔ 中庄駅 (所要時間：約14分)

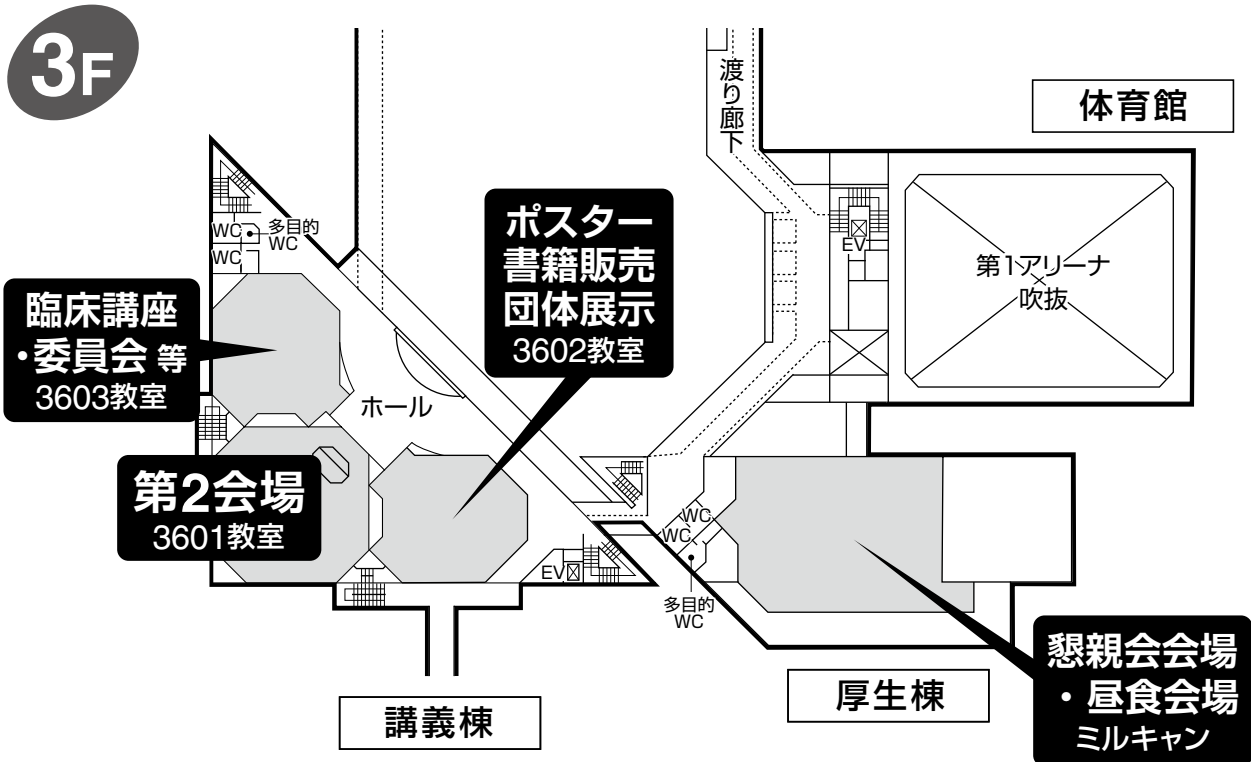
岡山空港 ➔ 倉敷駅 (所要時間：約35分) ➔ 中庄駅 (所要時間：約5分)

# 会場案内図

## 講義棟

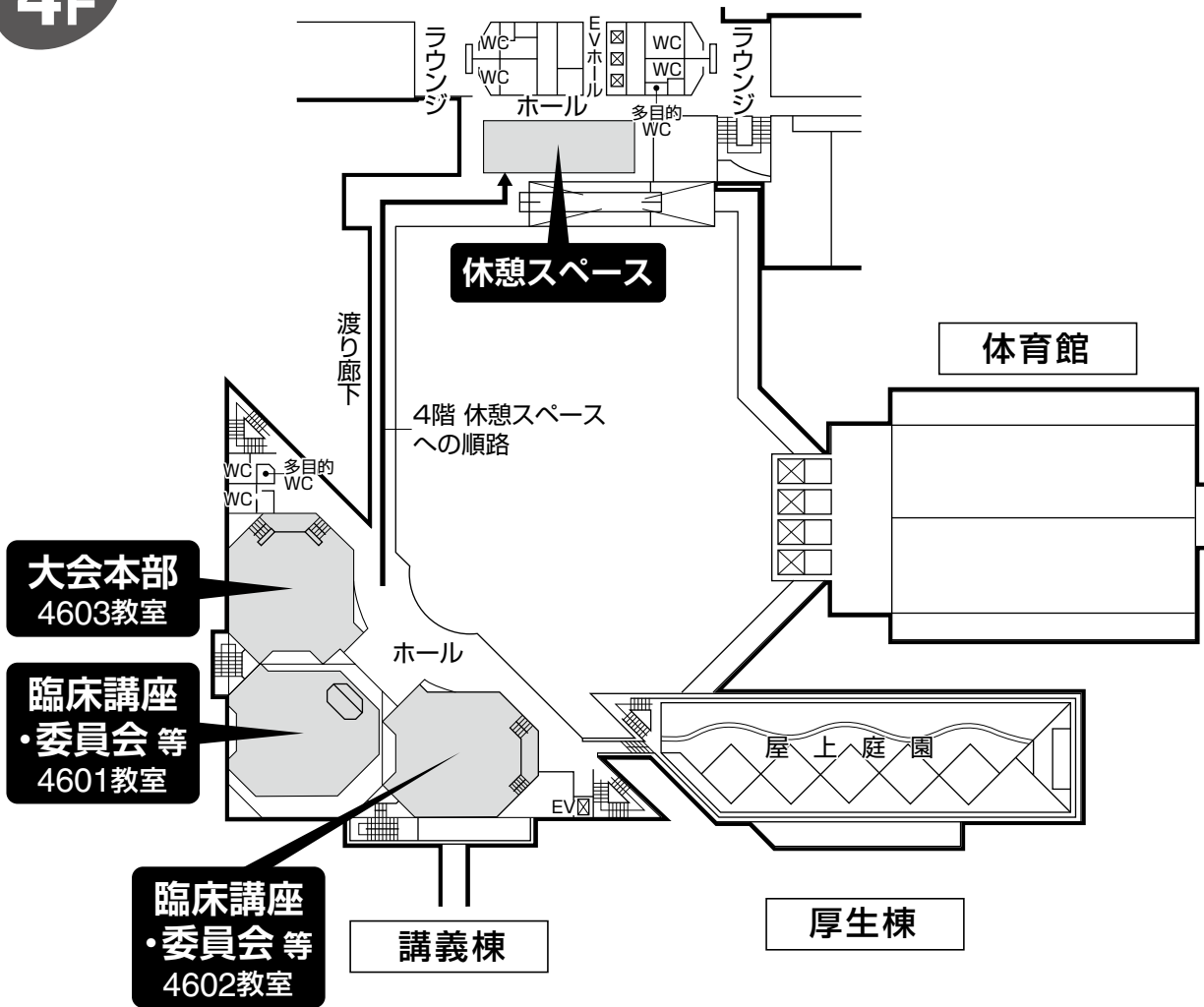


## 講義棟・厚生棟



講義棟・本館棟

4F



# 参加される皆様へ

## 1. 参加受付

場所：川崎医療福祉大学 講義棟2階

時間：9月7日(土) 9:00～18:00

9月8日(日) 9:00～15:00

※事前参加登録の際(Payvent)に発行されたQRコードが必要となります。

本学会へのご参加にあたり、現地参加いただく方は下記の案内をご確認のうえ会場にお越しくださいますようお願いいたします。

### ★現地会場の参加受付について

現地にいらっしゃる前に大変お手数ですが、事前にPayventの参加登録個人ページから参加証(ネームカード)の印刷をお願いいたします。

参加証のダウンロード方法と印刷方法はホームページの参加者の皆様へをご覧ください。

受付前に、記名台で参加登録用紙を記入し、参加受付にご提出いただき、Payvent入金時に発行されたQRコードを印刷したものか、QRコードの表示されたスマホ画面をご提示ください。  
参加登録情報を確認後、ネームホルダー、昼食券(事前登録者のみ)、懇親会シール(事前登録者のみ)をお渡しいたします。

なお、司会受付、座長受付、演者受付は設けておりませんので、司会、座長、演者(特別講演・会長講演・教育講演・シンポジウム・学会企画・臨床講座・臨床レクチャー、口頭発表、ポスター発表)の方はお手数ですが、参加受付時にご来場の旨、係りの者にお申し出ください。

**【注意】**9/7(土)1日目の受付は9時からとなっております。恐れ入りますが、9時より前は会場にお入りいただけませんので、どうかご了承ください。

ネームカードは大会期間中必ずご着用ください。

## 2. 参加費

早期参加登録期間(2024年3月15日～8月25日)	
一般会員	7,000円
学生・ジュニア会員	2,000円
非会員	8,000円
一般参加登録期間(2024年8月26日～9月28日)	
一般会員	8,000円
学生・ジュニア会員	2,000円
非会員	9,000円

当日は現金でお支払いいただけません。事前にオンライン上(Payvent)で参加登録および支払いをお済ませいただき、ご来場いただくようお願いいたします。

### [ 学生の方へ ]

学生の方は、大会参加当日に学生であることが条件です。受付時に学生証、もしくは在学証明書をお忘れなくご提示ください。証明書のご提示がない場合は、学生としての参加はできません。



### 3. クローク

場所：川崎医療福祉大学 講義棟2階

時間：9月7日(土) 9:00～18:30まで

9月8日(日) 9:00～16:50まで

\*金銭、貴重品、パソコン等はお預かり出来かねますので、ご自身で管理くださいますようお願いいたします。

### 4. プログラム・抄録集

印刷した抄録集は用意していません。大会ホームページからPDFをダウンロードしてください。なお、会場内には大会ホームページやその他の外部ネットワークに接続できるWi-Fi環境はありません。

### 5. 発表等の録音・録画・撮影について

当大会の全ての発表、講演、ポスター等の撮影や録画(写真、動画等)、録音は禁止です。なお、オンデマンド配信のため、大会の報道担当が大会中に動画撮影、写真を撮影いたします。予めご了解ください。

### 6. 書籍販売・展示

講義棟3階 3602教室にて書籍等の販売・展示がございます。

### 7. 休憩スペースおよび昼食

大学周辺の食事場所は限られています。昼食券を事前にお申込みいただくか、中庄駅から大学までにあるコンビニ(ローソン、セブンイレブン)もしくはスーパー(ハローズ24時間営業)で、事前にご準備いただくことをお勧めします。

- **昼食場所**：ミルキャン(厚生棟3階)もしくは、フードモール(厚生棟2階)  
申込状況によって、当日両方、もしくは、一方のみとなる場合がありますので予めご了承ください。
- **その他の昼食場所**：本館4F ホール(休憩スペース)を開放
- **昼食券**：7日、8日 それぞれ500円(8月25日までに事前申し込みが必要)
- **喫食可能時間**：7日 11:00～13:30、8日 11:00～14:00
- 昼食券は購入できる人数に上限がありますのであらかじめご了解ください。

### 8. 会場における注意事項

会場内におきましては、携帯電話やスマートフォン等はマナーモードに設定してください。各会場内での携帯電話やスマートフォン等による通話もご遠慮ください。建物内・外ともに禁煙となっておりますので、喫煙はご遠慮ください。

## 9. 総会議案書の説明会

日時：9月7日(土) 13:40～14:30

場所：第1会場(講義棟2階 2601教室)

会員の方は13:40までに第1会場(講義棟2階 2601教室)に入室して下さるようお願い申し上げます。

## 10. 役員会、委員会

以下の日時・会場にて、各委員会、ワーキンググループを行います。委員の先生方は、指定の日時に会場にお集まりください。

「吃音臨床の手引き」改訂版作成ワーキンググループ

日時：9月7日(土) 11:50～12:50

会場：3603教室(3階)

講習・研修委員会

日時：9月8日(日) 12:40～13:40

会場：3603教室(3階)

プログラム委員会

日時：9月8日(日) 12:40～13:40

会場：4601教室(4階)

広報委員会

日時：9月8日(日) 12:40～13:40

会場：4601教室(4階)

事務局会議

日時：9月8日(日) 12:40～13:40

会場：4602教室(4階)

## 11. 大会本部

場所：4603教室(4階)

大会事務局への連絡はすべてメール [kituon12@aol.com](mailto:kituon12@aol.com) をお願いします。

会場(川崎医療福祉大学)へのお電話やお問い合わせはご遠慮ください。

設置期間：9月7日(土) 8:30～9月8日(日) 16:30

## 12. 急病、ケガ、体調不良など

大会受付までご連絡ください。救急の場合には「119番」対応となります。

### 13. 報道関係の方へ

取材される場合は受付までご連絡ください。理事長・大会長等に取材していただけるよう調整いたします。発表等の録音・録画・写真撮影は発表者の著作権と肖像権保護のため、発表者等の許可が必要ですのでご了承ください。

### 14. その他

- 拾得物・遺失物、学会本部にご用の方は、受付にお申し出ください。
- 託児室の設置はございません。

### 15. 懇親会

場 所：川崎医療福祉大学内ミルキャン（厚生棟3階）

時 間：9月7日（土）18:30～20:30

参加費：5,000円（8月25日までに事前申し込みが必要）

参加は事前に登録された方に限定させていただきます。詳細は大会ホームページをご確認ください。

懇親会は参加できる人数に上限がありますのであらかじめご了承くださいませようお願いします。

## 司会・座長の皆様へ

- 開始予定時刻の10分前には、会場内右前方の「次司会席・次座長席」にご着席ください。
- セッション開始のアナウンスおよび終了のアナウンスをお願いいたします。

### 各講演、臨床講座、臨床レクチャー、シンポジウムの司会の先生方へ

各講演は手元のランプが、発表終了予定時間5分前に黄色点灯、終了時に赤色点灯で合図しますので、演者の発表時間にご注意いただき司会をお願いします。司会の先生方は講演者の講演時間によって時間が余るようでしたら、質問の時間を適宜お取りください。時間がない場合は司会の先生のまとめのお言葉をもって終了していただいてもかまいません。

### 口頭発表の座長の先生方へ

1演題の発表時間は、質疑応答を含め10分（発表7分質疑応答3分）です。発表経過時間を示すベルを6分経過で1回、7分経過で2回、10分経過で3回鳴らして合図しますので、ベルにご注意いただき、プログラムの進行に十分ご配慮いただきますよう、お願いいたします。

- 質疑応答では、発言者の所属・氏名を確認してください。
- 発表者に対しては、ご自身のPCの持ち込みでの発表をお願いしています（HDMI端子からスライドを投影）。念のため、PCの動作不良、PCの持ち込みができなかった場合に備え、予め発表データでの登録をご案内し、不測の場合は演台のPC（Windowsのみ）での発表を想定しております。
- 進行は司会・座長に一任いたしますが、時間内に終了するようにご協力のほど、よろしくごお願いいたします。

## 発表者・演者の皆様へ

### ■特別講演・会長講演・教育講演・シンポジウム・学会企画・臨床講座・臨床レクチャー

- 発表はご自身の持ち込み PC (Win/Mac など) での発表を、各自お願いいたします (HDMI 端子からスライドを投影できます。変換アダプター等が必要な場合は必ずご持参ください)。スライドはプレゼンテーションソフト (Microsoft PowerPoint, Apple Keynote 等) で作成してください。また、念のため電源アダプターを忘れずにご持参ください。バッテリーのみのご使用は、充電が不十分だとトラブルの可能性があります。
- シンポジウム、学会企画など複数名での発表の場合、PC 差し替え時の混乱を避けるため、発表資料はできるだけ一つのパソコンに集約していただいて、当日プロジェクターに接続していただくようお願いいたします。
- 発表の際は COI (利益相反状態) の情報開示をお願いします。スライドの最初または最後に、利益相反状態を開示するスライドを提示してください。
- PowerPoint のスライドのサイズは、標準 (4 : 3) を推奨します。
- 事前にご自身の PC にて必ず動作チェックを行なってください。
- 動画・音声等を使用される場合も、動作確認については各自、予めご発表前に、正しく動くことをご確認ください。
- PC の操作は演者ご自身でお願いします。操作支援・補助が必要な場合は、予め会場の PC センター担当にご相談ください。
- なお、念のために、当日の発表は、持ち込み PC での発表のみとさせていただきますが、PC の動作不良などやむをえない事象が発生した場合に備え、予め Windows データーにて (Mac の場合対応不可のため、必ず Windows Microsoft PowerPoint データーに変換して)、会期前 (7月15日～8月25日15時厳守) までに、PowerPoint データー (動画・音声データがある場合は、全てのデータを同一のフォルダに入れて) を、大会事務局 PC センター担当 (矢野実郎 yano@mw.kawasaki-m.ac.jp) まで、お送りくださいますようお願いいたします。お送りいただいた発表データは学会終了後、事務局で責任を持って消去いたします。
- 予めお送りいただくデータの形式は、予備機として会場 PC は Windows PC のみ設置しますので、以下の条件を満たしたものをお送り下さい。
  - ◆ ご使用になるアプリケーションは、Microsoft PowerPoint (pptx、.ppt 形式) としてください。
  - ◆ フォントは OS に搭載されている標準フォントをご使用ください (以下例)。
    - [ 日本語 ] MS ゴシック・MSP ゴシック・游ゴシック・MS 明朝・MSP 明朝・游明朝
    - [ 英 語 ] Times New Roman・Arial・Arial Black・Arial Narrow・Century・Century Gothic
  - ◆ スライドのサイズは標準 (4 : 3) を推奨します。
  - ◆ 動画ファイルは MP4 (H.264、ビットレート 10Mbps 以下) 形式または WMV 形式を推奨します。
- 送付いただくデータのファイル名は必ず「講演名 (または企画名) - 演者氏名 (フルネーム)」として下さい。  
例) 特別講演 岡部健一.pptx
- データは事前に最新のウイルス駆除ソフトにてチェックを行ってください。音声や動画がある場合は、くれぐれも全てのデータを同一のフォルダに入れてお送りください。
- ご発表の 15 分前までに会場内左手前方の次演者席にご着席ください。

- 1演題の発表の時間は事前にお知らせした通りです。質疑応答は司会者からのお声掛けがあったらお受け下さい。司会者が適宜判断いたします。手元のランプが、発表終了予定時間5分前に黄色点灯、終了時に赤色点灯して合図しますので、ランプにご注意いただき、発表時間は厳守でお願いします。
- パワーポイントを使用したパソコンでの発表を原則とします。
- スライドの枚数に制限はありませんが、制限時間を厳守してください。

## ■ 口頭発表

- 発表はご自身の持ち込み PC (Win/Mac など) での発表を、各自お願いいたします (HDMI 端子からスライドを投影できます。変換アダプター等が必要な場合は必ずご持参ください)。スライドはプレゼンテーションソフト (Microsoft PowerPoint, Apple Keynote 等) で作成してください。また、念のため電源アダプターを忘れずにご持参ください。バッテリーのみのご使用は、充電が不十分だとトラブルの可能性があります。
- 発表の際は COI (利益相反状態) の情報開示をお願いします。スライドの最初または最後に、利益相反状態を開示するスライドを提示してください。
- PowerPoint のスライドのサイズは、標準 (4 : 3) を推奨します。
- 事前にご自身の PC にて必ず動作チェックを行なってください。
- 動画・音声等を使用される場合も、動作確認については各自、予めご発表前に、正しく動くことをご確認ください。
- PC の操作は演者ご自身でお願いします。操作支援・補助が必要な場合は、予め会場の PC センター担当にご相談ください。
- なお、念のために、当日の発表は、持ち込み PC での発表のみとさせていただきますが、PC の動作不良などやむをえない事由が発生した場合に備え、予め Windows データーにて (Mac の場合対応不可のため、必ず Windows Microsoft PowerPoint データーに変換して)、会期前 (7月15日～8月25日15時厳守) までに、PowerPoint データー (動画・音声データがある場合は、全てのデータを同一のフォルダに入れて) を、大会事務局 PC センター担当 (矢野実郎 yano@mw.kawasaki-m.ac.jp) まで、お送りくださいますようお願いいたします。お送りいただいた発表データは学会終了後、事務局で責任を持って消去いたします。
- 予めお送りいただくデータの形式は、予備機として会場 PC は Windows PC のみ設置しますので、以下の条件を満たしたものをお送り下さい。
  - ◆ ご使用になるアプリケーションは、Microsoft PowerPoint (pptx、.ppt 形式) としてください。
  - ◆ フォントは OS に搭載されている標準フォントをご使用ください (以下例)。
    - [ 日本語 ] MS ゴシック・MSP ゴシック・游ゴシック・MS 明朝・MSP 明朝・游明朝
    - [ 英 語 ] Times New Roman・Arial・Arial Black・Arial Narrow・Century・Century Gothic
  - ◆ スライドのサイズは標準 (4 : 3) を推奨します。
  - ◆ 動画ファイルは MP4 (H.264、ビットレート 10Mbps 以下) 形式または WMV 形式を推奨します。

- 送付いただくデータのファイル名は必ず「演題番号－筆頭演者氏名(フルネーム)」としてください。

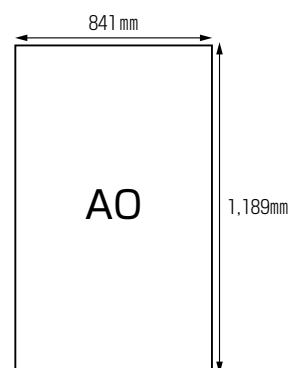
例) O-1 言語花子.pptx

- データは事前に最新のウイルス駆除ソフトにてチェックを行ってください。音声や動画がある場合は、くれぐれも全てのデータを同一のフォルダに入れてお送りください。
- ご発表の15分前までに会場内左手前方の次演者席にご着席ください。
- 1演題の発表は質疑応答を含め10分です。発表は概ね7分までとし、必ず質疑応答の時間をとってください。発表経過時間を示すベルを6分経過で1回、発表終了時の7分経過で2回、質問時間終了時の10分経過で3回鳴らして合図しますので、ベルにご注意いただき、発表時間は厳守をお願いします。
- パワーポイントを使用したパソコンでの発表を原則とします。
- スライドの枚数に制限はありませんが、制限時間を厳守してください。

## ポスター発表

### 1. ポスターの掲示作業について

- ポスター発表の受付はございません。
- 発表は座長を置かない責任在席制(20～30分)となります。
- ポスターの掲示サイズはA0サイズ(縦118.9cm×横84.1cm)です。
- 発表の際はCOI(利益相反状態)の情報開示をお願いします。
- ポスターの一日目発表は9月7日(土) 15:50～16:50(責任在席時間15:50～16:20)、二日目発表は9月8日(日) 11:10～12:10(責任在席時間11:10～11:40)の発表前までに指定の位置に各自で掲示してください(一日目・二日目ともに掲示:9:30～11:10、二日目発表ポスターを一日目から掲示することは可能です。また、一日目でお帰りになる場合、発表終了後に1日目発表ポスターも撤去は可能です)。当日掲示用の画鋏、マグネット類を用意いたしますのでご使用ください。
- 演題番号はパネルの左上に予め貼り付けてあります(20cm×20cm)。その横のスペース(縦20cm×横64cm)に演題名、演者名、および所属名を掲示してください。それ以外のスペースは、はみ出さない範囲でご自由にお使いください。
- ポスターは原則、2日間の掲示です。



### 2. 質疑応答について

- 参加者と質疑応答する機会を設けますので、発表者は指定された時間の30分間、各ポスター前に待機し、参加者と自由にディスカッションを行ってください。それ以外の時間帯にポスターの説明をしていただくのは自由です。
  - ◆ プログラムをご覧いただくとポスター番号が記載されています。
  - ◆ 一日目の方は、9月7日(土)の15:50～16:20が責任在席時間となります。
  - ◆ 二日目の方は、9月8日(日)の11:10～11:40が責任在席時間となります。
  - ◆ 開始5分前には、各自のポスター前にてご準備ください。

### 3. ポスター撤去作業について

- 撤去作業は、9月8日(日)発表終了後14:50～16:00までをお願いいたします。
- 上記時間帯に撤去されなかった場合は、学会終了後に事務局が廃棄いたしますのでご了承ください。

1日目 9月7日(土)

日 程 表

	第1会場 講義棟 2F 2601	第2会場 講義棟 3F 3601	ポスター会場 講義棟3F 3602	臨床講座・委員会 講義棟 3F 3603 4F 4601 4F 4602	
9:00	9:00～ 受付開始				
9:20～9:30	開会式				
9:30～10:00	大会長講演 臨床心理・神経心理から吃音臨床へ ～学際的な視点を生かす～	講師：福永 真哉 司会：種村 純	ポスター掲示		
10:10～11:10	シンポジウム 1 言語臨床の他領域からの知見を 吃音臨床に活かす シンポジスト：小谷 優平、小浜 尚也 原山 秋 司会：種村 純	10:10～11:10 女性の会 女性の集い ～吃音のある方と吃音当事者 に関わる女性のご家族で語り合おう～ コーディネーター：安井 美鈴、丸岡 美穂 松本 正美、鈴木 織江 矢野 亜紀子			
11:20～11:50	教育講座 1 小児から成人まで・吃音臨床の実際 ～開業 ST の報告	講師：仲野 里香 司会：酒井 奈緒美			
12:00	昼 休 み	昼 休 み	ポ ス タ ー 掲 示	11:50～12:50 各種委員会・ 打ち合わせ	
12:50～13:30	マイヴォイス ～私が伝えたい吃音への想い～	12:30～13:40 口頭発表 I 吃音のある人の 臨床・教育・支援 座長：高橋 三郎		ポ ス タ ー 掲 示	
13:40～14:30	総会議案書の説明会				
14:40～15:40	特別講演 一隅を照らす、当事者医師が 吃音相談外来を始めて思ったこと 講師：岡部 健一 司会：福永 真哉				
15:50～16:50	臨床レクチャー 1 吃音を理解するための発声発語器官の 解剖と生理と、吃音への応用 講師：池野 雅裕、永見 慎輔 司会：安井 美鈴	15:50～16:50 口頭発表 II 吃音のある人の心理、 吃音の原因探求 座長：土屋 美智子	15:50～16:50 ポスター発表 I (質疑応答)		
17:00～17:30	教育講座 2 “なおしたい”吃音にどう向き合っている のか?	講師：菊池 良和 司会：坂田 善政			
17:40～18:10	教育講座 3 小児を対象とした吃音訓練の実際 ～Lidcombe Programを中心に～	講師：坂崎 弘幸 司会：横井 秀明			
18:30～	懇 親 会 会場：ミルクヤン(厚生棟 3F)				

**2日目 9月8日**

	第1会場	第2会場	ポスター会場	臨床講座・委員会
	講義棟 2F 2601	講義棟 3F 3601	講義棟3F 3602	講義棟 3F 3603 4F 4601 4F 4602
9:00	9:00～ 受付開始			
10:00	<p>9:30～10:30</p> <p style="text-align: center;"><b>教育講演</b></p> <p style="text-align: center;">はじめて納得、認知行動療法</p> <p>講師：北條 具仁 司会：塩見 将志</p>	<p>9:30～10:40</p> <p style="text-align: center;"><b>口頭発表Ⅲ</b></p> <p style="text-align: center;">保護者支援、吃音のある人の 臨床・教育・支援</p> <p style="text-align: center;">座長：越智 景子</p>	ポ ス タ ー 掲 示	<p>9:30～12:15</p> <p style="text-align: center;"><b>臨床講座</b></p> <p style="text-align: center;">「吃音臨床の手 引き」を用いた 吃音臨床研修</p> <p>企画／統括 ファシリテーター： 堅田 利明</p> <p style="text-align: center;">(要事前申し込み)</p>
11:00	<p>10:30～11:00 <b>教育講座 4</b></p> <p>クラタリングに社交不安症を併存した思 春期例 —1つの症例から深く読み解く—</p> <p>講師：冨里 周太 司会：宮本 昌子</p>			<p>11:10～12:10</p> <p style="text-align: center;"><b>ポスター発表Ⅱ</b> (質疑応答)</p>
12:00	<p>11:10～12:40</p> <p style="text-align: center;"><b>シンポジウム 2</b></p> <p style="text-align: center;">吃音のあるST学生と、STのコーピング —「吃音と共に生きる」ための具体的な方法</p> <p>シンポジスト：飯村 大智、横井 秀明 角田 航平、岩船 傑 司会：飯村 大智、横井 秀明</p>			
13:00	昼 休 み	昼 休 み	ポ ス タ ー 閲 覧	<p>12:40～13:40</p> <p style="text-align: center;"><b>各種委員会・ 打ち合わせ</b></p>
14:00	<p>13:40～14:40</p> <p style="text-align: center;"><b>臨床レクチャー 2</b></p> <p style="text-align: center;">声帯の緊張を和らげる発声法と そのメカニズム</p> <p>講師：矢野 実郎、兒玉 成博 司会：吉澤 健太郎</p>	<p>13:40～14:30</p> <p style="text-align: center;"><b>口頭発表Ⅳ</b></p> <p style="text-align: center;">地域・社会への啓発、 吃音のある人の就職</p> <p style="text-align: center;">座長：小林 宏明</p>		<p>13:40～14:40</p> <p style="text-align: center;"><b>各種委員会・ 打ち合わせ</b></p>
15:00	<p>14:50～16:20</p> <p style="text-align: center;"><b>学会企画</b></p> <p style="text-align: center;">学校教育の場における支援の取り組み (学童・移行支援)</p> <p>シンポジスト：西尾 幸代 馬田 美紀 高山 祐二郎 指定討論：堅田 利明 司会：原 由紀</p>		ポ ス タ ー 撤 去	
16:00	<p>16:20～</p> <p style="text-align: center;"><b>閉 会 式</b></p>			
17:00				



# プログラム

1日目 9月7日(土)

大会長講演 9:30～10:00

第1会場

司会：種村 純(びわこ専門職大学)

## PL 臨床心理・神経心理から吃音臨床へ —学際的な視点を生かす—

福永 真哉(ふくなが しんや)

川崎医療福祉大学

シンポジウム1 10:10～11:10

第1会場

司会：種村 純(びわこ専門職大学)

### [ 言語臨床の他領域からの知見を吃音臨床に活かす ]

#### S1-1 失語と吃音の評価尺度

小谷 優平(こたに ゆうへい)

川崎医療福祉大学

#### S1-2 吃音と聴覚機能の関係

小浜 尚也(おばま なおや)

川崎医療福祉大学

#### S1-3 当事者会・家族会の役割と現状

～失語症と吃音から考える～

原山 秋(はらやま しゅう)

川崎医療福祉大学

女性の会 10:10～11:10

第2会場

### 女性の集い

～女性吃音の方、吃音当事者の女性のご家族、女性の専門職や支援者の方同士で  
語り合いましょう～

コーディネーター：安井 美鈴(やすい みずす) (大阪人間科学大学 保健医療学部 言語聴覚学科 准教授)

丸岡 美穂(おおさか結言友会)

鈴木 織江(東京言友会)

松本 正美(千葉言友会・吃音のある子どもと歩む会)

矢野 亜紀子(大分言友会・大分県立看護科学大学)

**SC1 小児から成人まで・吃音臨床の実際  
～開業STの報告**

仲野 里香(なかの りか)

ことばの相談 nakano

**マイヴォイス ～私が伝えたい吃音への想い～**

企画者・座長：齊藤 圭祐(さいとう けいすけ) (全国言友会連絡協議会)

発表者：清水 聡(悠々)

山口 千晴(岡山言友会)

田中 将省(鳥取城北高等学校、悠々、島根言友会)

**SL 一隅を照らす、当事者医師が吃音相談外来を始めて思ったこと**

岡部 健一(おかべ けんいち)

社会福祉法人旭川荘南愛媛病院 内科医師・院長

**[ 吃音を理解するための発声発語器官の解剖と生理と、吃音への応用 ]**

**CL1-1 呼吸発声発語器官の専門知識を活用する！**

—吃音評価との関連を知る—

池野 雅裕(いけの まさひろ)

川崎医療福祉大学

**CL1-2 呼吸発声発語器官の専門知識を活用する！**

—吃音介入への動向を探る—

永見 慎輔(ながみ しんすけ)

北海道医療大学

## SC2 “なおしたい”吃音にどう向き合っているのか？

菊池 良和(きくち よしかず)  
九州大学病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科

## SC3 小児を対象とした吃音訓練の実際 —Lidcombe Program を中心に—

坂崎 弘幸(さかざき ひろゆき)  
目白大学

2日目 9月8日(日)

## EL はじめて納得、認知行動療法

北條 具仁(ほうじょう ともひと)  
国立障害者リハビリテーションセンター病院

## C 「吃音臨床の手引き」を用いた吃音臨床研修

企画／統括ファシリテーター：堅田 利明(かただ としあき)  
関西外国語大学 准教授

グループファシリテーター：長澤 泰子(NPO 法人こどもの発達療育研究所)  
高山 祐二郎(小諸養護学校)  
餅田 亜希子(東御市民病院)  
原 由紀(北里大学)  
田宮 久史(久美愛厚生病院)  
西尾 幸代(福井大学連合教職大学院)  
吉澤 健太郎(北里大学病院)  
羽佐田 竜二(NPO 法人つばさ吃音相談室)  
黒澤 大樹(吃音・ことばの相談室くろさわ)

**SC4 クラタリングに社交不安症を併存した思春期例  
—1つの症例から深く読み解く—**

富里 周太(とみさと しゅうた)  
慶應義塾大学 医学部 耳鼻咽喉科学教室

**[ 吃音のある ST 学生と、ST のコーピング  
—「吃音と共に生きる」ための具体的な方法 ]**

**S2-1 ST の修学・就労における吃音のインパクト**

飯村 大智(いひむら だいち)  
筑波大学人間系

**S2-2 吃音のある ST 学生と ST のコーピングに関する実態調査**

横井 秀明(よこい ひであき)  
なるみ吃音相談室

**S2-3 吃音のある ST 学生と ST の会の紹介・取り組み**

角田 航平(かくた こうへい)  
国立障害者リハビリテーションセンター病院

**S2-4 吃音のある ST の就労における実際とコーピング**

岩船 傑(いわふね すぐる)  
筑波記念病院

[ 声帯の緊張を和らげる発声法とそのメカニズム ]

**CL2-1** 音声治療から学ぶ力んだ発声の緩和  
～吃音への展望～

矢野 実郎(やの じつろう)  
川崎医療福祉大学

**CL2-2** 吃音と音声障害の鑑別を目的とした音声治療手技について

兒玉 成博(こだま なりひろ)  
川崎医療福祉大学

[ 学校教育の場における支援の取り組み(学童・移行支援) ]

企画・指定討論：堅田 利明(かただ としあき)  
関西外国語大学

**SP-1** 吃音の理解啓発活動と教育相談の歩みから考える支援者の役割と課題

話題提供者1  
西尾 幸代(にしお さちよ)  
福井大学連合教職大学院

**SP-2** 吃音を主訴とする教育相談の役割と移行支援の意義と課題  
— 学校生活を安心してスタートできるための連携・協働を通して —

話題提供者2  
馬田 美紀(うまだ みき)  
福井県特別支援教育センター

**SP-3** 複雑化、二次障がいを引き起こさないために学校でできる取り組み

話題提供者3  
高山 祐二郎(たかやま ゆうじろう)  
長野県小諸養護学校

# 口頭発表 プログラム

口頭発表Ⅰ 9月7日(土) 12:30～13:40

第2会場

座長：高橋 三郎(住吉小学校)

## [ 吃音のある人の臨床・教育・支援 ]

### O-01 リッカムプログラムにより、短期間で効果が見られた幼児の一例

○横井 秀明(よこい ひであき)<sup>1)2)</sup>、松田 真一<sup>2)</sup>

1)なるみ吃音相談室、2)はる訪問看護リハビリステーション

### O-02 音読を免除されていた重度吃音の一例

○佐藤 あおい(さとう あおい)、菊池 良和、山口 優実、中川 尚志

九州大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

### O-03 吃音のあるこどものきょうだい支援の意義 ーグループインタビューから

○堅田 利明(かただ としあき)

関西外国語大学

### O-04 吃音外来を受診する吃音児の保護者の来院理由の検討

○葛本 伊緒里(つたもと いおり)<sup>1)</sup>、菊池 良和<sup>1)2)</sup>、森田 紘生<sup>1)</sup>、北村 匠<sup>1)</sup>、加賀 勇輝<sup>1)</sup>、  
山下 あん<sup>1)</sup>、永尾 和也<sup>1)</sup>、宮地 英彰<sup>1)</sup>

1)医療法人はかたみち はかたみち耳鼻咽喉科、2)九州大学大学院医学研究院耳鼻咽喉科

### O-05 言語聴覚士養成校に在籍する吃音を有する学生の学外臨床実習における 合理的配慮実施への一考察

○安井 美鈴(やすい みすず)<sup>1)</sup>、松浦 雄史<sup>2)</sup>、川見 員令<sup>3)</sup>

1)大阪人間科学大学 保健医療学部 言語聴覚学科、2)堺市立重症心身障害者(児)支援センターベルデさかい、  
3)滋賀医科大学医学部附属病院

### O-06 吃音支援者や支援機関を増やすために有効と思われる対策 ～京都府言語聴覚士会アンケート調査の結果から～

○川本 一美(かわもと かずみ)<sup>1)3)</sup>、高井 小織<sup>2)3)</sup>、脇 豊明<sup>4)</sup>

1)医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院、2)京都光華女子大学 福祉リハビリテーション学科 言語聴覚専攻、  
3)京都府言語聴覚士会 吃音委員会、4)すたっと京都

[ 吃音のある人の心理、吃音の原因探求 ]

**O-07** アバターの使用が吃音当事者に及ぼす効果とその適用範囲について

○大野 風咲(おおの なぎさ)<sup>1)</sup>、飯村 大智<sup>2)</sup>、春野 雅彦<sup>3)</sup>、井原 綾<sup>3)</sup>、青木 瑞樹<sup>4)</sup>、  
福永 真哉<sup>5)</sup>、塩見 将志<sup>5)</sup>、安藤 英由樹<sup>1)</sup>

1) 大阪芸術大学 芸術研究科、2) 筑波大学人間系、3) 情報通信研究機構 脳情報通信融合研究センター、  
4) 筑波大学大学院 人間総合科学学術院 人間総合科学研究群、5) 川崎医療福祉大学 言語聴覚療法学科

**O-08** 言友会例会参加の吃音者にみられる社交不安障害についての研究

○松浦 奈央(まつうら なお)

香川大学 医学部 臨床心理学科

**O-09** 幼児一例における発吃前後の言語発達の変化：予備的研究

○高橋 三郎(たかはし さぶろう)<sup>1)2)</sup>、飯村 大智<sup>3)</sup>

1) 府中市立住吉小学校、2) 東京学芸大学 個人研究員、3) 筑波大学人間系

**O-10** 吃音・クラタリングのある児童における音韻性短期記憶と誤反応：  
非語復唱課題による検証

○飯村 大智(いらいら だいち)<sup>1)</sup>、青木 瑞樹<sup>2)3)</sup>、何 橙棋<sup>2)</sup>、高橋 三郎<sup>4)5)</sup>、石田 修<sup>6)</sup>、  
飯村 知久<sup>7)</sup>、宮本 昌子<sup>1)</sup>

1) 筑波大学 人間系、2) 筑波大学大学院 人間総合科学学術院 人間総合科学研究群、  
3) 日本学術振興会特別研究員、4) 府中市立住吉小学校、5) 東京学芸大学 個人研究員、  
6) 茨城大学 教育学部、7) 医療法人社団志友会 くすのき歯科医院

**O-11** 幼児の吃音の生起に影響を与える音声特徴の分析

○越智 景子(おち けいこ)<sup>1)</sup>、酒井 奈緒美<sup>2)</sup>、角田 航平<sup>3)</sup>

1) 京都大学、2) 国立障害者リハビリテーションセンター研究所、3) 国立障害者リハビリテーションセンター病院

[ 保護者支援、吃音のある人の臨床・教育・支援 ]

**O-12** 吃音相談児のきょうだい有無の検討

○菊池 良和(きくち よしかず)、山口 優実、佐藤 あおい、中川 尚志

九州大学病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科

**O-13** 当院吃音外来を受診した吃音者の居住地についての検討

○森田 紘生(もりた こうき)<sup>1)</sup>、菊池 良和<sup>1)2)</sup>、北村 匠<sup>1)</sup>、蔦本 伊緒里<sup>1)</sup>、加賀 勇輝<sup>1)</sup>、  
山下 あん<sup>1)</sup>、永尾 和也<sup>1)</sup>、宮地 英彰<sup>1)</sup>

1) 医療法人はかたみち はかたみち耳鼻咽喉科、2) 九州大学大学院 医学研究院 耳鼻咽喉科学

**O-14 吃音 VR を用いた訓練を行った社交不安症合併の吃音症の一例**

○北村 匠(きたむら たくみ)

医療法人はかたみち はかたみち耳鼻咽喉科

**O-15 吃音と社交不安を併発した15歳の中学生に対するVRを用いた曝露療法プログラムの開発と実践**

○梅津 円(うめつ まどか)

株式会社 DomoLens

**O-16 成人吃音者における健康関連 QOL の評価  
—基本属性による分析—**

○青木 瑞樹(あおき みずき)<sup>1)2)</sup>、宮本 昌子<sup>3)</sup>

1) 筑波大学大学院 人間総合科学研究群、2) 日本学術振興会、3) 筑波大学 人間系

**O-17 コンパッション瞑想前後における安静時機能結合の変化**

○藤井 哲之進(ふじい てつしん)<sup>1)</sup>、豊村 暁<sup>2)</sup>、横澤 宏一<sup>3)</sup>

1) 小樽商科大学 グローカル戦略推進センター、2) 群馬大学大学院 保健学研究科、  
3) 北海道大学大学院 保健科学研究院

**口頭発表Ⅳ** 9月8日(日) 13:40～14:30

**第2会場**

座長：小林 宏明(金沢大学)

**[ 地域・社会への啓発、吃音のある人の就職 ]**

**O-18 演題取り下げ**

**O-19 当院成人吃音外来の新設と高知言友会発足の活動報告**

○川村 立(かわむら りゅう)

社会医療法人仁生会細木病院

**O-20 就労支援を中心とした吃音のある成人の訓練事例**

○酒井 奈緒美(さかい なおみ)、森 浩一、石川 浩太郎、石丸 純子

国立障害者リハビリテーションセンター

**O-21 吃音者の社会適応に対して精神科的アプローチが効果的であった一例**

○橋本 壮平(はしもと そうへい)

国立病院機構 肥前精神医療センター 精神科



# ポスター発表 プログラム

ポスター発表Ⅰ 9月7日(土) 15:50～16:50

ポスター会場

## P-01 文章音読における自己の発話非流暢性が言語情報の記憶と再生および内容理解に及ぼす影響

○藤田 陽生(ふじた はるき)<sup>1)</sup>、深瀬 茉友<sup>2)</sup>、前新 直志<sup>3)</sup>

1) 国際医療福祉大学塩谷病院 リハビリテーション室、

2) 社会医療法人みゆき会 みゆき会病院 リハビリセンター、3) 国際医療福祉大学 保健医療学部 言語聴覚学科

## P-02 友人の共行動的サポートが吃音のある中学生のコミュニケーション態度に与える影響

○山元 幹大(やまもと みきひろ)<sup>1)</sup>、若林 上総<sup>2)</sup>

1) 金沢大学大学院 人間社会環境研究科 地域創造学専攻 教育支援開発学コース、

2) 宮崎大学 教育学部 教育臨床心理(特別支援教育)講座

## P-03 福島県における吃音啓発活動の効果

— 幼児教育施設職員へのアンケート調査から —

○森 弥生(もり やよい)<sup>1)</sup>、戸田 祐子<sup>2)</sup>、日高 友郎<sup>1)</sup>

1) 福島県立医科大学 衛生学・予防医学講座、2) 広島市言語・難聴児育成会 きつおん親子カフェ

## P-04 吃音と社交不安を併発した3名の吃音がある青年に対するVRを用いた曝露療法プログラムの開発と実践

○梅津 円(うめつ まどか)

株式会社 DomoLens

## P-05 オートエスノグラフィーを用いた軽度吃音の当事者研究

— 障害受容のプロセスとSTによる吃音臨床の意義 —

○脇 瑠花(わき るか)

一般財団法人 多摩緑成会 緑成会整育園

**P-06** 演題取り下げ

**P-07** Melodic Intonation Therapy for Stuttering (MIT-S) プログラムの開発  
— 予備的介入研究

○辰巳 寛(たつみ ひろし)<sup>1)</sup>、羽佐田 竜二<sup>2)</sup>

1) 愛知学院大学 健康科学部、2) つばさ吃音相談室

**P-08** WEB システムを活用し見えてきたこと  
～吃音症状及び家庭における練習の記録方法～

○宮下 枝里子(みやした えりこ)<sup>1)</sup>、羽佐田 竜二<sup>1)2)</sup>

1) 特定非営利活動法人 つばさ吃音相談室、2) 医療法人赫和会 杉石病院

**P-09** 多職種連携によって長期の不登校状態を脱した社交不安症を併存する  
吃音のある中学生の一例

○長谷部 雅康(はせべ まさやす)<sup>1)</sup>、吉澤 健太郎<sup>1)</sup>、福田 倫也<sup>1)2)</sup>、雪本 由美<sup>1)</sup>

1) 学校法人北里研究所 北里大学病院 リハビリテーション部、2) 学校法人北里研究所 北里大学 医療衛生学部

**P-10** オンラインによる女性吃音当事者を対象とした定期ミーティングの意義と課題

○安井 美鈴(やすい みすず)<sup>1)</sup>、丸岡 美穂<sup>2)</sup>、松本 正美<sup>3)</sup>、鈴木 織江<sup>4)</sup>、矢野 亜紀子<sup>5)</sup>

1) 大阪人間科学大学 保健医療学部 言語聴覚学科、2) おおさか結言友会・香川言友会、

3) 千葉言友会・吃音のある子どもと歩む会、4) 東京言友会、5) 大分言友会・大分県立看護科学大学

# 特別講演

# 口頭発表

日本吃音・流暢性障害学会 第12回大会  
プログラム・抄録集

---

大会長：福永 真哉

事務局：川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部 言語聴覚療法学科  
事務局長 池野 雅裕、永見 慎輔、飯村 大智  
〒701-0193 岡山県倉敷市松島288  
E-mail：kituon12@aol.com

出版：株式会社セカンド  
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F  
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025  
<https://secand.jp/>



日本吃音・流暢性障害学会第12回大会事務局

---



川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部  
言語聴覚療法学科

事務局長：池野 雅裕、永見 慎輔、飯村 大智

〒701-0193 岡山県倉敷市松島288

E-mail: kituon12@aol.com